

県立新庄病院だより



わかば

～栄養管理科の紹介～

県立新庄病院の栄養管理科では、地域の食材を活かした「おいしい病院食」を提供します。病院食は治療の一つですので、「食べて治す」が基本です。治療効果を高めるために管理栄養士と調理師が病室を訪問しながら患者様に直接うかがい、一人一人に合った食事をお出ししています。

管理栄養士は患者様の病気に合わせた献立や飲み込みやすい料理を考え、調理師は味付け、食事の硬さ、盛りつけに気を配り、食事が入院中の楽しみになるよう心がけています。



クリスマス献立

その一つに「行事食」があり、入院中でも季節の楽しい行事を味わっていただけるよう工夫しています。

高齢や病気で食べ物が飲み込みにくくなった患者様には、しばしば「嚥下(えんげ)障害」がみられます。そして、食べ物が間違って気管に入ってしまうことで起きる「誤嚥(ごえん)性肺炎」が多くなっています。県立新庄病院には、そういった患者様でも安全に食べられる「嚥下(えんげ)食」があります。管理栄養士と調理師は、「見た目にもおいしい嚥下食」を日々研究しています。



嚥下ハンバーグゼリー

また、県立新庄病院には「栄養サポートチーム」というものがあります。栄養で病気を治すことを目的とし、主治医とは別の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフ、臨床検査技師などで成り立つ栄養専門のチームです。主治医と相談しながら「栄養治療」を行い、例えば手術の後の傷が早く治るように、食事がとれない間でも点滴などで栄養をつけて早く退院できるよう、患者様の栄養状態を良くすることを考えます。最近話題になっているのは、栄養をつけてリハビリ効果を高める「リハビリテーション栄養」です。リハビリスタッフと連携し、管理栄養士がリハビリをしている患者様を实际見て、触って、必要な栄養を計算し食事として提供します。筋肉を鍛えるためのリハビリに栄養を足すと、リハビリ効果だけでなく治療効果も高まると言われています。



リハビリテーション栄養

このように県立新庄病院栄養管理科は、「患者様に会いに行く」管理栄養士と調理師で、今日もおいしい食事をお届けします。



県産花き、お気づきですか？

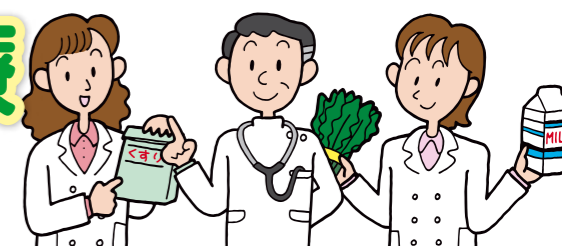


新庄病院1階の薬剤部受付(お薬のお渡し口)の近くに県産花きを使用したフラワーアレンジメントを飾っています。これは、山形県花き生産協議会より県産花きのPRと消費拡大のため、提供されています。

毎月、上旬と中旬に新しい花きが飾られ、四季折々の美しい花きを見ることができます。病院にお立ち寄りの際はぜひご覧ください。



当院では、チーム医療を推進しています



チーム医療とは…

病院では、さまざまな専門分野の職員が働いています。たとえば、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、事務などです。一人ひとりの患者様に対して、関係する専門分野の職員がチームとして連携・補完し、それぞれの知識・技術を集約することによって、医療、療養生活の質の向上を図ります。当院では、以下のようなチーム医療や病棟薬剤業務、クリニカルパスの作成などを行っています。

栄養サポートチーム



「栄養は治療だ。」を合言葉に、食欲不振、嚥下障害、低栄養状態、褥瘡等がある患者様に対して、栄養状態を改善して治療効果を高めることを目的としています。

感染制御チーム



院内を巡回し、院内各部署の感染症の発生状況や感染対策の実施状況を把握するとともに、未然に院内感染を防ぐことを目的としています。

緩和ケアチーム



生命を脅かす疾患に伴う問題に直面する患者様とご家族様に対して、さまざまな苦痛が早期から緩和され、その人らしい生活ができるようサポートします。

褥瘡対策チーム



褥瘡(床ずれ)になりやすい患者様に予防ケアを行います。褥瘡のある患者様には、創傷・寝床環境を見直すことで早期改善を図ります。

事故防止対策委員会



医療事故を防止するための対策を検討します。また、対策の実施状況を評価するため、随時院内を巡回し、しっかりと実行されているのか検証します。

退院支援



入院中の患者様が、退院後も安心して療養生活を送ることができるよう患者様・ご家族様のニーズをもとに地域の社会資源、サービスを活用して支援していきます。



整形外科

「人工関節手術」ってなんだろう？



初めまして整形外科の浅野多聞です。平成26年4月より山形県立新庄病院に赴任してきて半年になろうとしています。長年勤務した大学病院とは違った診療内容で、やっと慣れてきたところ。さて、今回は整形外科の疾患の中でも私が専門としていて、新庄病院でも半年間で40人以上が手術を受けた人工膝関節手術についてお話ししようと思っております。

「歩きはじめに膝が痛い」、「階段の上り下りがつらい」、「膝がはれてきた」、「長く歩けない」、「膝がO脚になってきた」、「正座がしにくくなった」などの症状がみられたら、それは変形性膝関節症の可能性がります。変形性膝関節症は全国に2000万人以上存在し、70歳以上の男性25%、女性60%が罹患していると言われております。特に山形県の最上地区は高齢者の割合が高く、膝関節疾患を抱えた患者様が非常に多く存在すると考えられています。

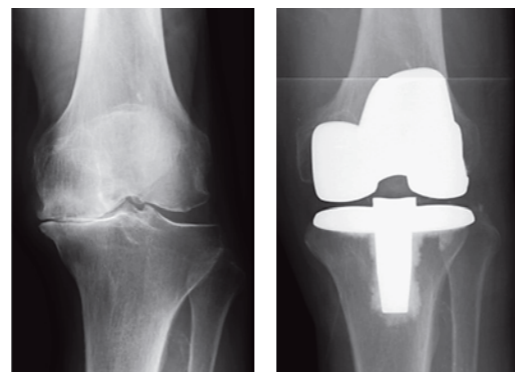
また、骨折、靭帯損傷、半月板損傷などの膝のけが、膝の手術、関節リウマチ、膝骨壊死のあとにも変形性膝関節症は発症します。

大腿骨と脛骨の間のすきまの狭くなった患者様は大きく分けて二つの治療法を選択されます。

手術をしない保存療法には安静、リハビリテーション、筋力訓練、痛み止めなどの内服薬、湿布や塗り薬などの外用薬、ヒアルロン酸や痛み止めなどの注射薬、足底板や膝装具装着があります。何年も膝の痛みで苦しんでいた、膝がO脚やX脚に変形していたり、まっすぐに伸びない、深く曲がらなくなった患者様は保存療法で症状が軽快することは難しく、手術療法が必要です。

手術療法には、“関節鏡を使って関節の中の滑膜や変性した半月板、軟骨を切除する関節デブリドマン”、“膝の形を変えて体重のかかる部分を移動させる高位脛骨骨切り術”、“人工関節手術”があります。より効果的で早く退院できて長く効果のある人工関節手術を一番おすすめします。

人工膝関節全置換術とは、最近ではテレビや雑誌でも紹



介される手術方法で、悪くなった軟骨、骨、半月板などの痛みの原因を切除して、膝関節を金属製の人工関節に交換します。手術後に痛みがなくなる可能性の高い手術です。また同時に膝のアライメント（外観）を矯正する手術でもあるので、O脚やX脚が若い頃の膝の形に戻り、伸びなかった膝がまっすぐになって膝が美脚になり、身長が伸びて姿勢がよくなります。靭帯のバランスの調整、滑膜切除を行いますので、疼痛が緩和するだけでなく、歩行距離が伸びて、健康状態、精神状態まで向上する効果があります。

日本全国の人工関節手術の手術件数は年間80,000件におよび、今後も増加することが予想されています。新庄病院での人工膝関節全置換術は90%以上の患者様が1時間から1時間半程度で終了し、リハビリテーションを含めて約3-4週間で退院しています。

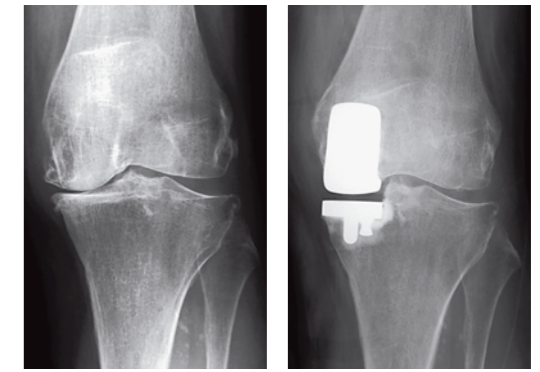
最新の人工膝関節全置換手術ではより自然な膝関節に近づけるように、後十字靭帯を温存する人工関節を行っています。今後、当院では前十字靭帯までも温存する人工膝関節全置換手術を全国に先駆けて導入する予定です。コンピュータ支援手術のナビゲーション人工関節全置換や最小侵襲手術の対応も可能です。

また、変形や変性が少ない患者様にはより侵襲が少ない（キズが8cmくらいで筋肉を傷つけない）人工膝関節単顆置換術も可能です。人工関節全置換術と比較しても術後の疼痛、出血、入院期間が短く、効果的な手術です。

県立新庄病院ではこの手術を年間100件から200件を目標にして、最上地区から膝が痛い患者様がいなくなるように頑張る予定です。

膝がはれて痛くて、曲がってきた患者様は漫然とした保存療法を受けるよりは、ぜひ手術療法を選択することをおすすめします。ぜひ県立新庄病院を紹介、受診して下さい。

(日本整形外科学会専門医 医学博士 浅野 多聞)



研修医紹介



4月より新庄病院にて初期研修医として働いている酒井一嘉といいます。各診療科同士に隔たりがなく、地域とも深く密着した医療を行っているところを魅力的に感じ、ここ新庄病院での研修を強く希望しました。

医師になってもまだまだ半人前で、日々指導医の先生につきながら、医師としての知識はもちろん、社会人としても一から勉学に励んでいます。

まずは初期研修2年間という短い間になりますが、どうかよろしくお願いいたします。